

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

菊川流域は、北方水源地に山地を望み、洪積台地と丘陵の間に三角州的性格を持つ低地が形成されており、河口部には砂丘が広がっている。

(1) 上流域

上流域は、標高 500m 付近の源流から標高 25m 程度までの丘陵地を流下する区域である。

流域の自然植生は、植林や茶園としての利用が進んでおり、自然植生は丘陵地の一部に照葉樹林が見られる。



図-2.1 菊川上流域

(2) 中流域

中流域は、標高 25m 付近から下流の氾濫平野を流下する区域であり、旧河道も多く、自然堤防も分布している。

この区間は主に農地を流下する平地区間で、支川や水路と多くの溜池によって水域の連続性が保たれている。小笠山はカワラヒワをはじめ多くの野鳥が生息することで知られ、鳥獣保護区に指定されている。



図-2.2 菊川中流域

(3) 下流域

下流域は、標高 5m 以下の旧湿地とその下流側の標高 15m 程度まで達する砂丘が分布する区域である。

この区間は主に住宅地や水田を流下する区間で、河口部の汽水の混じる静穏水域には、汽水・海水魚のシロウオやヒモハゼが多く確認され、多くの水鳥の越冬地となっており、小規模な干潟はサギ類の餌場になっている。また、この干潟にはシロチドリなどが生息しており、水際の湿地にはヒメナミキなどの湿性植物が見られる。遠州灘に面する海岸は砂丘が連続しており、遠州灘鳥獣保護区に指定されている。



図-2.3 菊川下流域

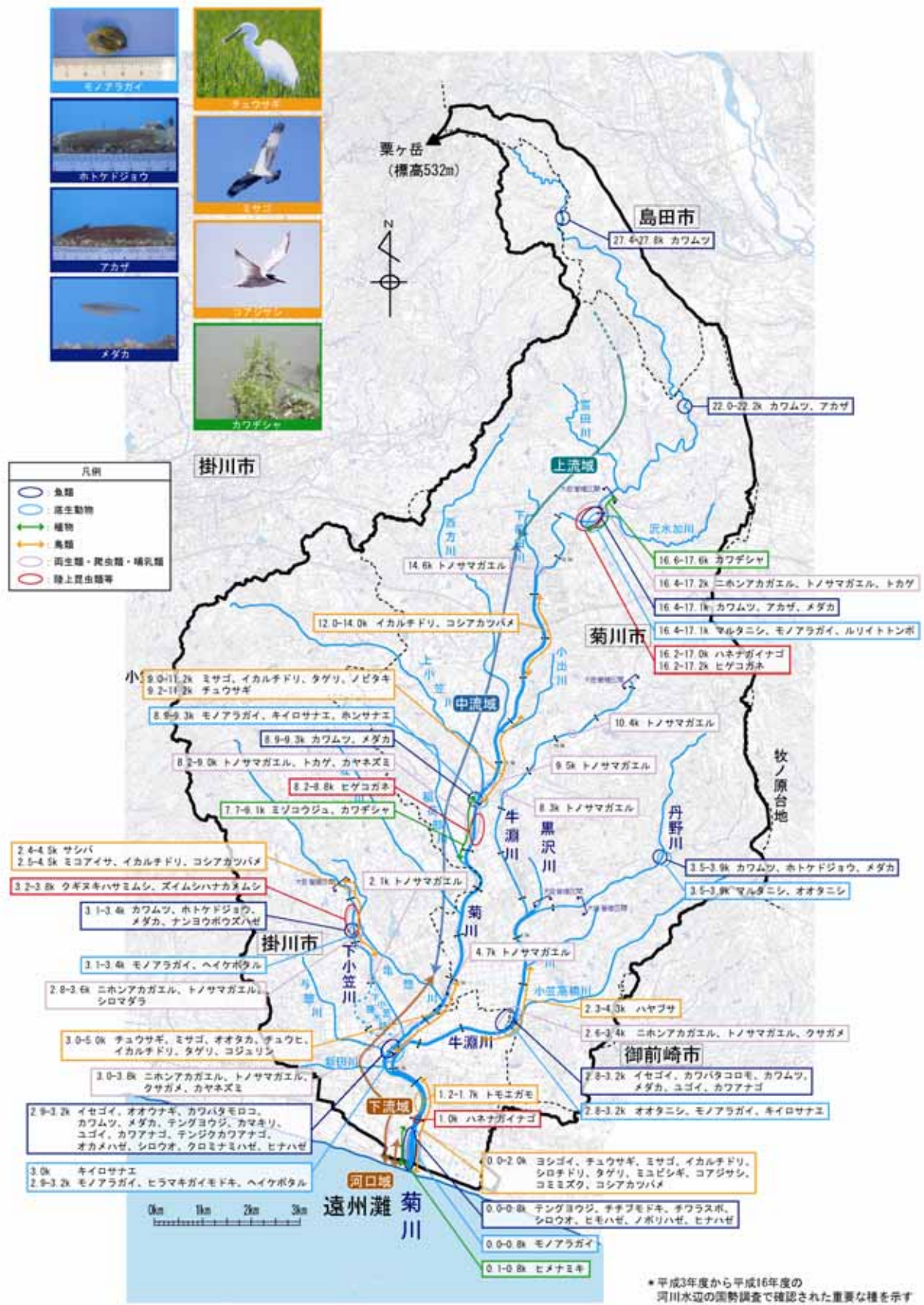


図-2.4 菊川流域の自然環境（動物）

2-2 河川の自然環境

菊川は、丘陵地を流下する上流部、三角州的性格をもつ中・下流部、広い静穏水域と小規模な干潟がある河口部に区分される。

(1) 上・中流部

川幅が狭く、菊川本支川の河川敷はほとんどが草地となって単調である。また、連続する床止め工等付近には淵や平瀬が多く形成されているが、ほとんどの床止め工で水棲生物の移動障害が危惧される。さらに水域～陸域の連続性も護岸などにより乏しくなっている。しかしながら河川内にはミゾコウジュやカワヂシャ等の湿性な草地が見られる。

魚類は、カワムツやメダカが確認されている。

底生動物は、上流の立ヶ谷橋^{たてがやばし}付近では、水質は比較的良好であり、清冽な水域に生息する種が多い。また瀬、淵、河岸の植物など、多様な河川環境が見られることから確認種数も多く、河川上～中流域の早瀬に生息するフタバコカゲロウ、エルモンヒラタカゲロウ、アカマダラカゲロウ、ウルマーシマトビケラ、河川中流域の緩流部に生息するキイロカワカゲロウ、河川上～中流域の水に浸かったツルヨシの根元などに生息するニシカワトンボ、コオニヤンマ、コヤマトンボなど、様々な生活型の底生動物が確認されている。

植物は、ヨシ群落、ツルヨシ群落、オギ群落などが広がっている。

鳥類は、イカルチドリやタゲリが確認されている。

両生類・爬虫類・哺乳類は、トノサマガエルやカヤネズミが生息している。



カワヂシャ

Veronica undulata
(ゴマノハグサ科)

・環境省 RDB/準絶滅危惧(NT)

【越年草】

【分布】本州中部以西、四国、九州、琉球に分布。

【生育場所】河岸、溝のふちや田に生育。

【花期】5～6月。

出典：まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-植物編 2004(2004, 静岡県環境森林部自然保護室)、日本の野生植物草本(1981, 平凡社)



メダカ

Oryzias latipes
(ダツ目メダカ科)

・環境省 RDB/絶滅危惧 II 類(VU)
・静岡県 RDB/絶滅危惧 II 類(VU)

【分布】本州以南琉球列島まで分布。遺伝的にいくつもの集団に分化している。

【生息場所】水田や浅い池沼などの止水域に生息。日中は浅いところで盛んに摂餌し、夜間は少し深いところや、水草の中で過ごす。

【産卵時期】4～9月。

出典：川の生物図典(1996, 山海堂)、まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-動物編 2004(2004, 静岡県環境森林部自然保護室)

(2) 下流部

水域～陸域の連続性が乏しい菊川にあって、連続性が比較的確保されている区間であり、河口～3km付近までは自然河岸が多く見られる。部分的にある高水敷はグラウンド等の利用や草地が見られる。沿岸一体は遠州灘鳥獣保護区及び御前崎遠州灘県立自然公園に指定され、菊川では河口～約2km付近までがこの区間内にある。

魚類は、カワムツ、メダカやシロウオが確認されている。

底生動物は、鹿島橋^{かしまばし}付近で、感潮域の最上流部ということを反映し、河川感潮域～下流域の砂礫

底に生息するイシマキガイ、感潮域～下流域の水中植物体を生息場所とするミゾレヌマエビ、テナガエビ、感潮域に広く生息するゴカイ等が多い。また、様々な水域に出現する種群であるミズミミズ科の数種も多く確認されている。

植物は、ヨシ群落、ツルヨシ群落、オギ群落などが広がっている。

鳥類は、チュウサギ、ミサゴ、タゲリが確認されている。

両生類・爬虫類・哺乳類は、トノサマガエル、カヤネズミ、クサガメが生息している。

(3) 河口部

河口砂州と小規模な干潟、ヨシ原が広がる塩性湿地環境を形成している。汽水の混じる静穏水域では多くの水鳥の越冬地となっており、小規模な干潟はサギ類の餌場になっている。

大東^{だいとう}マリーナ、温泉施設の他、太平洋岸自転車道橋「潮騒橋」^{しおさいぼし}が整備され、マリンスポーツ等様々なレジャーに利用されている。

魚類は、シロウオやヒモハゼが確認されている。

底生動物は、河口部付近では、干潟やヨシ原に生息するチゴガニ、ハマガニ、アシハラガニや汽水域の砂泥を好むヤマトスピオ、モエビ、ノコギリガザミ、干潮域に広く生息するゴカイ、ケフサイソガニなどが多い。

植物は、シオクグ・イソヤマテンツキなどの塩沼植物、ハマヒルガオなどの海浜植物などが生育している。

鳥類は、イカルチドリ、コアジサシ、カモ類などが確認されている。



チュウサギ

Egretta intermedia
(コウノトリ目サギ科)
・環境省 RDB/準絶滅危惧 (NT)

【分布】アフリカ、アジア、オーストラリアに分布。日本には夏鳥として渡来し、本州から九州までの各地で繁殖する。

【生育場所】水田や湿地に生息。平地の林に集団で繁殖コロニーをつくる。

【産卵時期】4～8月。

出典：川の生物図典(1996, 山海堂)



シロウオ

Leucopsarion petersii
(スズキ目ハゼ科)
・環境省 RDB/準絶滅危惧 (NT)
・静岡県 RDB/絶滅危惧 IA 類 (CR)

【分布】北海道南部から鹿児島県までの日本各地に分布。

【生育場所】波が穏やかで水のきれいな沿岸に生息し、浅いところの中層や下層で群をなして遊泳生活を送る。

【産卵時期】福岡・三重両県で2月～4月、新潟県で4月中旬～5月下旬。

出典：改訂版日本の淡水魚(2001, 山と溪谷社)、まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-動物編、植物編 2004(2004, 静岡県環境森林部自然保護室)



ヒモハゼ

Eutaeniichthys gilli
(スズキ目ハゼ科)
・静岡県 RDB/絶滅危惧 II 類 (VU)

【分布】本州以南に分布。

【生育場所】河口域、沿岸部の潮だまりに生息。軟泥や、カキ殻のあるような礫底のところで見られる。

出典：まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-動物編 2004(2004, 静岡県環境森林部自然保護室)

(4) 菊川における重要な種

菊川に生息、生育する重要な生物として、既往の河川水辺の国勢調査において確認された、環境省レッドデータブック等によりその生息、生育が危惧されている種（重要な種）は、次頁以降に示すとおりである。

表-2.1 重要な種の選定根拠文献

<ul style="list-style-type: none"> ・ 国・都道府県・市区町村指定の天然記念物 ・ 「絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種 ・ 環境庁編（2000）「無脊椎動物レッドリスト」 ・ 環境省(庁)編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 」 <ul style="list-style-type: none"> 1 哺乳類（2002） 2 鳥類（2002） 3 爬虫類・両生類（2000） 4 汽水・淡水魚類（2003） 8 植物Ⅰ(維管束植物)（2000） 9 植物（維管束植物以外）（2000） ・ まもりたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック - <ul style="list-style-type: none"> 動物編．2004年．静岡県 植物編．2004年．静岡県

表-2.2 既往の河川水辺の国勢調査（H3～H16年）でこれまでに確認された重要な種

調査項目	種数
魚介類	21
底生動物	8
植物	3
鳥類	18
両生類	2
爬虫類	3
哺乳類	1
陸上昆虫類等	4

表-2.3 菊川で確認された魚類の重要な種一覧表 (H6~H15)

種名等	指定区分	河口部	下流部	中流部	上流部			支川
		菊菊浜1 0.0~0.8 km	菊菊浜2 2.9~3.2 km	菊菊浜3 8.9~9.3 km	菊菊浜4 16.4~17.1 km	菊菊袋1 22.0~22.2 km	菊菊袋2 27.4~27.8 km	
1 イセゴイ	県							牛
2 オオウナギ	県							
3 カワバタモロコ	危惧 IB, 県							牛
4 カワムツ	県							牛, 丹, 下
5 ホトケドジョウ	危惧 IB, 県							丹, 下
6 アカザ	危惧 II, 県							
7 メダカ	危惧 II, 県							牛, 丹, 下
8 テングヨウジ	県							
9 カマキリ	県							
10 ユゴイ	県							牛
11 カワアナゴ	県							牛
12 チチブモドキ	県							
13 オカメハゼ	県							
14 テンジクカワアナゴ	県							
15 チワラスボ	県							
16 ナンヨウボウズハゼ	県							下
17 シロウオ	準危惧, 県							
18 ヒモハゼ	県							
19 クロミナミハゼ	県							
20 ノボリハゼ	県							
21 ヒナハゼ	県							

指定区分
 危惧 IB：環境省レッドデータブック、絶滅危惧 IB 類 (EN)
 危惧 II：環境省レッドデータブック、絶滅危惧 II 類 (VU)
 準危惧：環境省レッドデータブック、準絶滅危惧 (NT)
 県：まもりたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック -

支川
 牛：牛淵川
 丹：丹野川
 下：下小笠川

表-2.4 菊川で確認された底生動物の重要な種一覧表 (H6~H15)

種名等	指定区分	河口部	下流部	中流部	上流部			支川
		菊菊浜1 0.0~0.8 km	菊菊浜2 2.9~3.2 km	菊菊浜3 8.9~9.3 km	菊菊浜4 16.4~17.1 km	菊菊袋1 22.0~22.2 km	菊菊袋2 27.4~27.8 km	
1 マルタニシ	準危惧, 県							丹
2 オオタニシ	県							牛, 丹
3 モノアラガイ	準危惧, 県							牛, 下
4 ヒラマキガイモドキ	県							
5 ルリイトンボ	県							
6 キイロサナエ	県							牛
7 ホンサナエ	県							
8 ヘイケボタル	県							下

指定区分
 準危惧：環境省レッドデータブック、準絶滅危惧 (NT)
 県：まもりたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック

支川
 牛：牛淵川
 丹：丹野川
 下：下小笠川

表-2.5 菊川で確認された植物の重要な種一覧表 (H5~H14)

種名等	指定区分	河口部	中流部	上流部
		菊菊浜1 0.1~0.8 km	菊菊浜2 7.7~9.1 km	菊菊浜3 16.6~17.6 km
1 ミゾコウジュ	準危惧, 県			
2 ヒメナミキ	県 I			
3 カワヂシャ	準危惧			

指定区分
 準危惧：環境省レッドデータブック、準絶滅危惧 (NT)
 県：まもりたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック

表-2.6 菊川で確認された鳥類の重要な種一覧表 (H4～H13)

種名等	指定区分	河口部	下流部	中流部		支川
		菊菊浜1 0.0～2.0 km	菊菊浜2 3.0～5.0 km	菊菊浜3 9.2～11.2 km	菊菊浜4 12.0～14.0 km	
1 ヨシゴイ	県					
2 チュウサギ	準危惧					
3 トモエガモ	危惧II,県					
4 ミコアイサ	県					下
5 ミサゴ	準危惧,県					
6 オオタカ	保存,危惧II,県					
7 サシバ	県					下
8 チュウビ	危惧II,県					
9 ハヤブサ	保存,危惧II,県					牛
10 イカルチドリ	県					下
11 シロチドリ	県					
12 タゲリ	県					
13 ミユビシギ	県					
14 コアジサシ	危惧II,県					
15 コミズク	県					
16 コシアカツバメ	県					下
17 ノビタキ	県					
18 コジュリン	危惧II,県					

指定区分
 保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種の指定種
 危惧II：環境省レッドデータブック、絶滅危惧II類（VU）
 準危惧：環境省レッドデータブック、準絶滅危惧（NT）
 県：まもりたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック

支川
 牛：牛淵川
 下：下小笠川

表-2.7 菊川で確認された両生類・爬虫類・哺乳類の重要な種一覧表 (H3～H12)

種名等	指定区分	下流部	中流部	上流部	支川
		菊菊浜1 3.0～3.8 km 4.7 km	菊菊浜2 8.2～9.0 km 9.5 km, 14.6 km	菊菊浜3 16.4～17.2 km	
1 ニホンアカガエル	県				牛,下
2 トノサマガエル	県				牛,下
3 クサガメ	県				牛
4 トカゲ	県				
5 シロマダラ	県				下
6 カヤネズミ	県				

指定区分
 県：まもりたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック

支川
 牛：牛淵川
 下：下小笠川

表-2.8 菊川で確認された陸上昆虫類等の重要な種一覧表 (H4～H16)

種名等	指定区分	下流部	中流部	上流部	支川
		菊菊浜1 1.0km	菊菊浜2 8.2～8.8km	菊菊浜3 16.2～17.2km	
1 クギヌキハサミシ	県				下
2 ハネナガイナゴ	県				
3 ズイムシハナカメムシ	危惧I				下
4 ヒゲコガネ	不足				

指定区分
 危惧I：環境省レッドデータブック、絶滅危惧I類（CR+EN）
 不足：環境省レッドデータブック、情報不足（DD）
 県：まもりたい静岡県の野生生物 - 県版レッドデータブック -

支川
 下：下小笠川

(5) 菊川の代表種

菊川の環境を特徴づける種(代表種)として、既往の河川水辺の国勢調査結果をもとに選定した種は、下記に示すとおりである。

表-2.9 区分別の環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地・繁殖地など(1)

流域区分	河川区分	環境要素		調査項目	生息・生育する主な代表種	集団分布地・繁殖地など
下流域	菊川下流部	水域	水域干潟	魚類	オオウナギ、カワムツ、メダカ、テングヨウジ、ユゴイ、カワアナゴ、チチブモドキ、チワラスボ、シロウオ、ヒモハゼ、ヒナハゼ、ギンブナ、オイカワ、ヌマチチブ、(干潟性)ハゼ類、ウナギ、アユ	カモ類、カワウ類の集団分布地
				底生動物	モノアラガイ、ヒラマキガイモドキ	
		陸域	河口特有の植生 ツルヨシ・ヨシ群落 オギ群落 湿地の植生 高水敷の植生 自然裸地	植物	ヒメナミキ、ヨシ群落、ツルヨシ群落、オギ群落	
				鳥類	ヨシゴイ、チュウサギ、ミサゴ、イカルチドリ、シロチドリ、コアシサシ、コシアカツバメ、トビ、カモ類、シギ・チドリ類	
				両生類・爬虫類・哺乳類	トノサマガエル、クサガメ、カヤネズミ	
				魚類	カワムツ、メダカ、ギンブナ、オイカワ、カワヨシノボリ、アユ	
中流域	菊川中流部	水域	瀬淵 ワンド ・たまり 水際植生	魚類	カワムツ、メダカ、ギンブナ、オイカワ、カワヨシノボリ、アユ	ヒメアマツバメの集団繁殖地
				底生動物	モノアラガイ、ヒラマキガイモドキ	
		陸域	沈水植物群落 ツルヨシ・ヨシ群落 オギ群落 湿地の植生 高水敷の植生 河畔の樹林地 自然裸地	植物	カワヂシャ、ミゾコウジュ、ヨシ群落、ツルヨシ群落、オギ群落	
				鳥類	イカルチドリ、タゲリ、トビ、チョウゲンボウ、カワラヒワ、スズメ	
				両生類・爬虫類・哺乳類	トノサマガエル、カヤネズミ	
				陸上昆虫类等	ヒゲコガネ	

注)赤字の種は、「重要な種(環境省レッドデータブック等の掲載種)」として選定された種。

青字の種は、「指標種(上位種)」として選定された種。

緑字の種は、「指標種(典型種)」として選定された種。

紫字の種は、「指標種(特殊種)」として選定された種。

茶字の種は、「指標種(移動種)」として選定された種。

上記選定種は、河川水辺の国勢調査において現地確認された、菊川の河川区域内に生息、生育する種。

表-2.9 区分別の環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地・繁殖地など(2)

流域区分	河川区分	環境要素	調査項目	生息・生育する主な代表種	集団分布地・繁殖地など
上流域	菊川上流部	水域 瀬淵 ワンド ・たまり 水際植生	魚類	カワムツ、アカザ、メダカ、ギンブナ、オイカワ、カワヨシノボリ、ウナギ、アユ	
			底生動物	モノアラガイ、ルリイトトンボ	
		陸域 ツルヨシ ・ヨシ群落 オギ群落 湿地の植生 高水敷の植生 河畔の樹林地 自然裸地	植物	カワヂシャ、ツルヨシ群落、オギ群落	
下流域	牛淵川下流部	水域 淵 水際植生	魚類	カワムツ、メダカ、カワアナゴ、チチブモドキ、ギンブナ、オイカワ、ヌマチチブ、ウナギ	
			底生動物	オオタニシ	
		陸域 ツルヨシ ・ヨシ群落 オギ群落 湿地の植生 高水敷の植生	植物	ヨシ群落、ツルヨシ群落、オギ群落	
			鳥類	トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、カワラヒワ、スズメ	
	両生類・爬虫類・哺乳類	トノサマガエル、クサガメ			
上流域	牛淵川上流部	水域 淵 水際植生			
		陸域 ツルヨシ ・ヨシ群落 オギ群落 湿地の植生 高水敷の植生	植物	ツルヨシ群落、オギ群落	

注)赤字の種は、「重要な種(環境省レッドデータブック等の掲載種)」として選定された種。

青字の種は、「指標種(上位種)」として選定された種。

緑字の種は、「指標種(典型種)」として選定された種。

紫字の種は、「指標種(特殊種)」として選定された種。

茶字の種は、「指標種(移動種)」として選定された種。

上記選定種は、河川水辺の国勢調査において現地確認された、菊川の河川区域内に生息、生育する種。

表-2.9 区分別の環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地・繁殖地など(3)

流域区分	河川区分	環境要素		調査項目	生息・生育する主な代表種	集団分布地・繁殖地など
下流域	丹野川	水域	淵 水際植生	魚類	カワムツ、ホトケドジョウ、メダカ、ギンブナ、 オイカワ、カワヨシノボリ、ヌマチチブ	
				底生動物	オオタニシ	
		陸域	ツルヨシ ・ヨシ群落 オギ群落 湿地の植生 高水敷の植生	植物	ヨシ群落、ツルヨシ群落、オギ群落	
下流域	黒沢川	水域	水際植生			
		陸域	ツルヨシ ・ヨシ群落 オギ群落 湿地の植生 高水敷の植生			
下流域	下小笠川	水域	水際植生	魚類	カワムツ、ホトケドジョウ、メダカ、ギンブナ、 オイカワ、カワヨシノボリ、アユ	
				底生動物	モノアラガイ	
		陸域	ツルヨシ ・ヨシ群落 オギ群落 湿地の植生 高水敷の植生 河畔の樹林地 自然裸地	植物	ツルヨシ群落、オギ群落	
				鳥類	ミコアイサ、イカルチドリ、コシアカツバメ、 トビ、カワラヒワ、スズメ	
		両生類・爬虫類・哺乳類	ニホンアカガエル、トノサマガエル、シロマダラ			

注)赤字の種は、「重要な種(環境省レッドデータブック等の掲載種)」として選定された種。

青字の種は、「指標種(上位種)」として選定された種。

緑字の種は、「指標種(典型種)」として選定された種。

紫字の種は、「指標種(特殊種)」として選定された種。

茶字の種は、「指標種(移動種)」として選定された種。

上記選定種は、河川水辺の国勢調査において現地確認された、菊川の河川区域内に生息、生育する種。

(6) 菊川を特徴づける場所

菊川を特徴づける場所(菊川らしさを代表する箇所)としては、以下に示す4箇所が整理される。

表-2.10 菊川を特徴づける場所一覧表

保全上重要な環境	位置	環境の特徴
河口の環境	0.5～0.7 km	河口砂州と小規模な干潟、ヨシ原が広がる塩性湿地環境を形成しており、水際の湿地にはヒメナミキなどの湿性植物が見られる。
河口の静穏水域	0.2～1.0 km	汽水の混じる静穏水域では汽水・海水魚が多く確認され、多くの水鳥の越冬地となっており、小規模な干潟は鳥類の餌場にもなっている。
青木前芝生広場	7.3～7.6 km左岸	広い高水敷の草地環境であり、グランドゴルフ等の利用者も多い。
菊川桜づつみ	12.6～13.3 km右岸	菊川の利用として堤防での散策が多く、堤防上にある桜づつみも多くの利用者がいる。



図-2.5 菊川を特徴づける場所位置図

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観

菊川の源流を発する粟ヶ岳（標高 532m）は、眼下に見える牧ノ原台地・大井川、見渡せば遠くの伊豆の連山、四季折々の自然の姿もよく、ハイキングコースが設定されている。

流域の上流を東海古道が横切っており、金谷と日坂の宿の間に金谷坂・中山峠の難所を挟んでいることから菊川の里も間の宿として設けられた。中山峠付近には、菊川の里をはじめとして数多くの物語の舞台となった史跡がある。

中流部付近には国指定重要文化財にもなっている黒田家長屋門があり、その造りは寄棟造葺き屋根で桁行は約 22m の雄大な門である。また、流域の周辺には高天神城址、諏訪原城跡、堤城跡、横地城跡などの城跡があり、特に「高天神をとるものは遠州を制す」と伝えられている。

河口部には、大東マリナ、温泉施設の他、太平洋岸自転車道橋「潮騒橋」が整備されている。また、水域ではマリンスポーツや釣りなど、様々なレジャーに利用されている。

(2) 菊川流域の文化財、歴史

1) 横地城跡

遠州きっての名族 = 横地氏一族が代々住んだと伝えられる典型的な山城跡で、県の重要文化財（史跡）の指定を受けている。平安中期、源八幡太郎義家の血を引く初代横地太郎家永により築城（1065 年）され、鎌倉時代を経て室町中期、今川義忠に討たれて落城（1476 年）するまでの約 400 年間栄え、その史実は「吾妻鏡」「保元物語」などに記されている。県下最大といわれる五重の宝篋印塔の上部が現存し、往時の名声をしのぶことができる。

毎年 4 月に桜まつりの行われる千畳敷、西の丸を中心に東へ行けば中の丸を経て金寿城本丸（東丸）にいたる複雑な尾根道が続く、西に向かえば、一騎駆け、金玉落とし、土墨跡、身討原、室町庭園跡、城主居館跡などが散在するが、多くは雑木林や茶園となっており、わずかに一族の墓が、その名残をとどめている。城山の麓にある慈眼寺から牛池、上池を経て林の中に尾根道にいたる散歩道がある。この道と、いまひとつ身討原下の谷田大池に抜ける山道には豊かな自然が残されており、ハイキングコースにふさわしい。近年、となりの丹野池に抜ける道も整備され、合わせて歴史を訪ねる散策ができる。



図-2.6 横地城跡

2) 高天神城址^{たかてんじんじょうし}

『高天神をとるものは遠州を制す』と伝えられる東海の名城である。高天神城の築城年代には諸説があり、特定することは出来ないが、室町時代に今川氏が守護大名から戦国大名に成長する過程で築かれた。

今川氏滅亡後、徳川家康の持ち城となり、小笠原長忠が城主となった。元龜2年、武田信玄が内藤昌豊に命じて攻めたが、城を落とすことが出来なかった。しかし、天正2年(1574年)、武田勝頼が2万の大軍で攻め、城将小笠原長忠はついに城を開城した。

天正3年(1575年)、長篠の合戦で大敗した武田勝頼は滅亡への道を転げ落ちる。家康は、高天神城攻略の足場として横須賀城を築き、ついに天正9年(1581年)、高天神城の奪還に成功する。遠江最大の武田氏の拠点高天神城は、徳川家康の手に戻ると、城は廃城となった。



図-2.7 高天神城址

3) 諏訪原城跡^{すわはらじょうあと}

永禄12年(1569年)11月武田信玄が標高218m 東西1,454m 南北580mの城地に遠州攻略の拠点として築城した。天正3年(1575年)7月徳川家康との激戦2ヶ月の末、同年8月徳川方の城となったが、天正10年(1582年)武田氏滅亡により、その重要性を失い廃城となる。天守跡や堀跡が残されており武田式築城法の典型といわれ、武田の守護神である諏訪明神が祭られている。

現在でも空堀や井戸跡が残され、戦国時代の典型的な山城の構えを伝える貴重な歴史的資料として、昭和50年(1975年)に国の重要文化財の指定を受けた。



図-2.8 諏訪原城跡

4) 黒田家長屋門^{くろだやながやちん}

黒田家は武門の出で、永禄の頃(1560年代)から現地に居住し、江戸時代には旗本本多日向守の代官職をつとめた。屋敷は濠をめぐらした壮大な規模の住宅で、昭和48年には長屋門と母屋が国の重要文化財に指定され、平成5年には米蔵・東蔵および濠を含めた屋敷全体が追加指定された。

長屋門は、18世紀中頃の建築と見られ、置千木を11本置く茅葺きの屋根は2,000石の格式を示すもので桁行き68尺(20.6m)に及ぶ大規模なものである。昭和51年(1976年)の解体修理で元の姿に戻された。

母屋は、安政の地震以後の建物と考えられます。建材には太い柱や梁を用いて、構造的にも4尺幅(1.2m)で2列に柱を立て、梁を2重にわたし、地震対策を施している。東蔵は平成9年に解体修理を行い、綿密な調査と共に元の姿に修理された。中世城館の遺構として近世・現代まで伝わる貴重な遺跡である。



図-2.9 黒田家長屋門

5) 正林寺^{しょうりんじ}

1517年に今川義忠の子・氏親によって、義忠戦死の地・塩買坂^{しおかいざか}に建立された。寺の境内には義忠公家臣の墓がある。また、寺所蔵の今川6代義忠自作の木像と、今川7代氏親の正室寿桂尼^{じゅけいに}の画像は、小笠町指定有形文化財となっている。

文明8年横地氏・勝間田氏^{かつまた}を討った今川義忠は、その帰路塩買坂にさしかかった時、横地氏の残党に不意をつかれ討ち死にした。その後義忠の菩提をともむらうため塩買坂の近くに昌桂寺^{しょうけい}を開き、これが後の正林寺となった。現在正林寺には、義忠の位牌と五輪塔が安置されている。

塩買坂は、相良から掛川、秋葉山へ向う、秋葉街道の難所の一つであり、塩や魚を運んだため塩買坂と呼ばれている。街道の変化によりその位置は何度か変化したようである。



図-2.10 正林寺

6) 寿桂尼画像^{じゅけいにがぞう}

寿桂尼は、今川氏親の亡き後駿河の尼御台として実力を発揮し、女戦国大名と呼ばれた人物である。

この掛け軸の作者、制作年代とも不明。寿桂尼の肖像画はこれ一枚のみだといわれている。平成2年小笠町(現菊川市)指定有形文化財に指定された。

7) 今川義忠木像^{いまがわよしただもくぞう}

義忠は今川家の戦国大名としての基礎を築いた人物である。この木像は、高さ24.5cmの座像で、一見僧形のような後ろは髻を結っている。平成2年に小笠町(現菊川市)指定有形文化財に指定された。

8) 井の宮神社^{いのみやじんじゃ}

江戸時代初期の義人中 条右近太夫^{ちゅうじょうこんだゆう}をたたえ建立した神社である。右近太夫は、干害の続く嶺田^{みねだ}地域の窮状を救うため、慶長12年(1607年)徳川家康に直訴して、嶺田用水を完成した。しかし右近太夫は、越訴の罪をとわれ処刑された。



図-2.11 井の宮神社

9) 小笠神社^{おがしじんじゃ}

四十二代の文武天皇の御后、十善高妃^{じゅうぜんこうき}は幼少より1日として御拝を怠らず、熊野三神^{くまの}を深く信仰していた。御懐妊の時「安産で男子が誕生致しましたら、東に三つの御社を建て勧請なしまいらせ日夜御敬います」と、那智の熊野三神に御祈願していた所、高妃に、天道神明も感応ありて御願望の如く、平身安産にて皇子が誕生した。この皇子が後の聖武天皇である。

帝と御后は、祈願どおり願望成就の上は急ぎ東に三つの社を建て勧請あるべし、と行うことで

建てられた社の一つが、静岡県掛川市の「小笠神社」(那智の宮)、本宮は大須賀町の三熊野神社、新宮は浜岡町の高松神社である。

「小笠神社」は家運繁栄の神様である。永禄大正の年間、掛川城攻め高天神城攻略等には当小笠山に砦を設けられ戦勝祈願、文化2年(1805年)には五穀豊穰、又、海幸守護の神として漁者の敬仰深く、斬る由来により古来靈験顕著の名社として神威四方に輝いていた。



図-2.12 小笠神社

10) 小夜の中山

「年たけて また越ゆべしと思ひきや 命なりけり 小夜の中山」。小夜の中山は西行法師の歌に詠まれたように、東海道の歌枕として名高いところである。東に金谷宿、西に日坂宿をひかえ、急峻な坂にはさまれた尾根伝いの峠で、街道の難所の一つとして数えられていた。小箱根とも呼ばれた急勾配の道は、うっそうとした樹木に埋もれ、当時は山賊なども横行した。近隣には歴史や伝説を伝える史跡も多く、往時の情緒たっぷりに味わえる散策コースも整備されている。

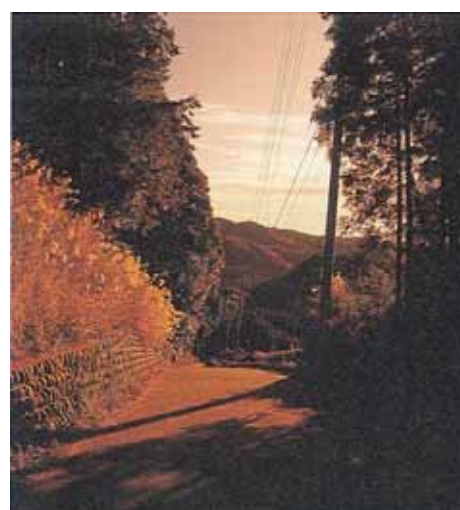


図-2.13 小夜の中山

11) 夜泣き石

小夜の中山のちょうど峠あたり、街道の真ん中に置かれた不思議な丸い石である。古代、峠の神に手向けをした場所を示すものであったが、そこに夜泣きの伝説が加わり、現代に語り継がれてきた。その昔、海老名の里に住む妊婦が日坂宿に向かっている折り、山賊に襲われ斬り殺されてしまった。その妊婦の魂魄がそばにあった丸石にのりうつり夜毎に泣いたため、「夜泣き石」と呼ばれるようになったと言われている。この石の下の砂を夜泣きする子供に与えれば、たちまち泣き止むなど、夜泣き石にまつわる話はさまざまに伝えられている。現在は峠に建立された久延寺の境内にまつられている。



図-2.14 夜泣き石

表-2.11 菊川周辺の文化財等

旧菊川町				旧大東町			
指定文化財	国	構 造 物	応声教院山門	指定文化財	国	史 跡	高天神城址
	県	古 文 書	友田妙照寺の経本		県	絵 画	白隠筆揚柳観音像
		史 跡	横地城跡				白隠筆臨濟禅師像
		構 造 物	潮海寺仁王門				白隠筆百丈禅師像
	書 画	平尾八幡宮の俳額	白隠筆達磨像				
	町	無形文化財	潮海寺祇園おはやし		天然記念物	本勝寺ナギ・マギの門	
		史 跡	大徳寺の古墳		民族文化財	八坂神社祭礼儀式と囃子	
		構 造 物	大頭龍神社の鳥居		天然記念物	マキの自然門	
		本社棟礼	平尾八幡宮の棟礼		史 跡	刀工高天神兼明屋敷跡	
	そ の 他		西福寺		工 芸	鱧口	
		長泉寺	書 跡	有栖川宮熾仁親王書跡			
		報恩寺	彫 刻	本勝寺本堂立川流彫刻 本勝寺七面堂立川流彫刻			
指定文化財	国	構 造 物	黒田家長屋門	町	工 芸	本勝寺七面堂廚子	
		史 跡	舟久保古墳		絵 画	本勝寺七面堂野賀岐山面	
	県	絵 画	寿桂尼画像		天然記念物	高天神追手門跡スギ	
		木 像	今川義忠木像			小笠神社参道スギ	
		天然記念物	善勝寺のクスノキ 庚申松 高橋熊野神社の椰			今龍寺イヌマツ	
	町	東林寺	正林寺			今龍寺ソテツ	
		安興寺	虚空蔵山			ボダイジュ	
		虚空蔵山	浅草観音山			春日神社クスノキ	
		井の宮神社	長安寺			満勝寺イチョウ	
		長安寺				永福寺イヌマキ	
			本勝寺カヤ				
そ の 他			岩井寺				
			華巖寺				
			興善庵				
			獅子ヶ鼻砦跡				
			貞永寺				
			八柄神社				
			小笠神社				

(3) 菊川流域にまつわる伝統・行事

1) 高天神社例大祭

高天神社は高天神城跡にあり、城が廃城になるまでは、城中守護の神社であった。この祭りは、毎年3月最終日曜日に東峰の社に神様が里帰りされる行事として行われている。260年前『瓊瓊杵尊』がこの地に降臨されたことに由来されたものといわれ、天狗の面を被った人、刀、鉄砲を持った人などが神輿と共に行列に加わり、50名程の御渡り行列が行われる。また、神社の前では、稚児の舞なども披露される他、高天神社跡は町の観光スポットであることから町をあげての各種イベントもとり行われ、桜の見頃と重なり多くの見物客で賑わっている。



図-2.15 高天神社例大祭

2) 矢矧祭

小笠神社の秋季大祭「矢矧祭」にむけて、大中小の矢が作られる。これを「矢矧神事」と呼ぶ。約700年高師直の輩下、梶一族(掛川市)が、小笠神社に集まり、再起を確かめ合う密議を行いその警戒の為、弓矢を一統の6人が当たって作っていたのが始まりで、時代は移り再起の望みも断れ、密議は同族の慰霊祭となった。さらに年月が経ち、小笠神社の祭典と結びつき一般の住民が参加するようになり、現在でも子孫の内の8人が矢作りを行っている。

「矢矧祭」は、神楽殿で巫女舞が奉納され、本殿で式典が行われる。式典が終わると宮司により、大矢8本が射放たれる。これは、神返しか結界作法の一つと考え、破魔矢と共通している。次に猿田彦(天狗面)を先達にして多聞神社に向かい、参拝者に1本ずつ中矢が配られ、矢を手にした人々の長い列が続く。やがて多聞神社に到着し、祠の周りに矢をさし、多聞天さまに奉納する。祭儀が済むと小笠神社に向かって還御となり終わる。小矢はその後氏子に配られている。



図-2.16 矢矧祭

3) 虚空蔵山の節分祭

虚空蔵山福蔵院は行基菩薩が彫ったと伝えられる虚空蔵菩薩像を中心に、民間の信仰を集めた寺院である。建保6年(1218年)に建立されたとする本堂は、徳川・武田の戦いで一時焼失したが寛永8年(1631年)に再建された。

節分祭は、寒明け2月3日に行われる素朴な行事であるが、虚空蔵山の民間信仰をしのぶことのできる貴重なものとして、平成9年1月には町の無形民俗文化財に指定された。



図-2.17 虚空蔵山の節分祭

2-4 自然公園等の指定状況

(1) 自然公園及び自然環境保全地域

菊川流域内には河口部をはじめ^{たんのいけ}丹野池、^{よこちじょうあと}横地城跡等に^{おまえぎきえんしゅうなだ}御前崎遠州灘県立自然公園が指定されており、海岸砂丘、保安林のマツ林や照葉樹林等の優れた自然景観が見られる。

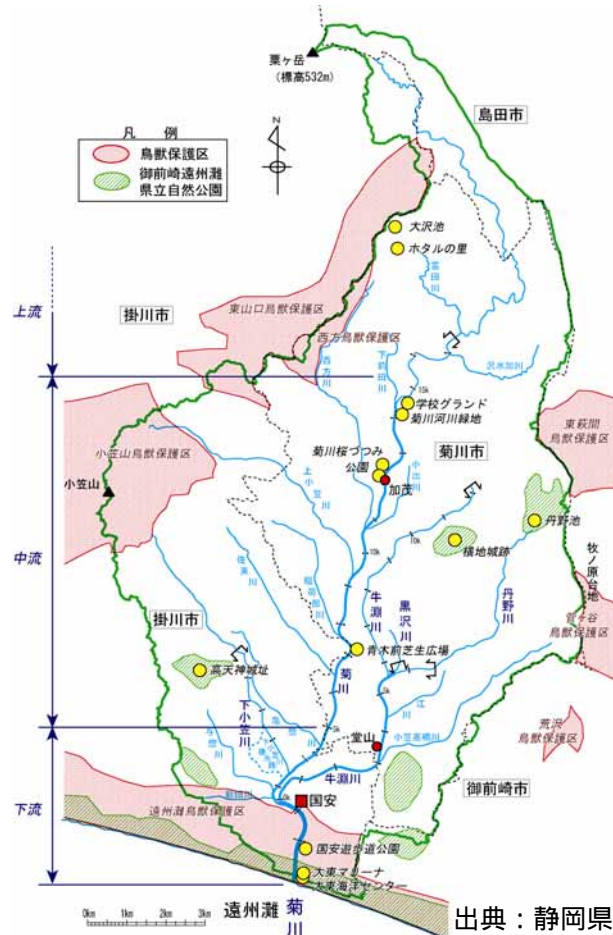
表-2.12 菊川流域自然公園等の指定状況

公園名	指定年月日	関係市	主な観光資源	公園面積
^{おまえぎきえんしゅうなだ} 御前崎遠州灘 県立自然公園	昭和43年12月20日	掛川市、菊川市、 御前崎市	丹野池、横地城跡、 大浜・千浜砂丘	1630.3ha

(2) 鳥獣保護区

菊川流域には、4箇所の鳥獣保護区が静岡県により指定されている。

NO.	設定	名称	指定期限	面積
1	県設	遠州灘鳥獣保護区	H24.10.31	5,261ha
2	県設	小笠山鳥獣保護区	H22.10.31	2,507ha
3	県設	^{ひがしやまくち} 東山口鳥獣保護区	H23.10.31	1,350ha
4	県設	^{にしがた} 西方鳥獣保護区	H23.10.31	193ha



出典：静岡県鳥獣保護区等位置図

図-2.18 菊川流域自然公園・鳥獣保護区の指定状況